

# 第3学年算数科学習指導案<修正>

平成25年7月1日(月) 5校時

第3学年1組 計35名

授業者 川端 幸子

## 1 単元名 「わり算」

## 2 単元の目標

- ・除法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。
- ・除法が用いられる場面を式にしたり、式を読み取ったりすることができるようにする。

## 3 評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
・除法の意味や計算の仕方を、乗法や減法と関連付けて考えようとしている。	・簡単な場面について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えている。	・除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。	・包含除や等分除など、整数の除法の意味について理解している。 ・除法と乗法や減法との関係について理解している。
・除法の式に表したり、式を読み取ったりすることに関心を持ち、いろいろな場面を式に表そうとしている。	・除法が用いられる場面を具体物や図などを用いて考え、式に表している。 ・除法の式を具体的な場面に結びつけてとらえている。	・除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。	・式に表したり、式を読み取ったりすることを通して、除法が用いられる場面の数量の関係について理解している。

## 4 教材観

### (1) 等分除と包含除

除法が用いられる場面には、大別すると次の二つがある。

一つは、ある数量がもう一方の数量のいくつ分であるかを求める場合で、包含除と呼ばれている。他の一つは、ある数量を等分したときにできる一つ分の大きさを求める場合で、等分除と呼ばれている。

等分除の「○人で同じ数ずつ分ける」ということは日常生活でよくみられる光景であり、体験を通してどのように分けたらよいかを理解している児童が多い。しかし、図を使って表現する場合、表しづらく見にくいものになりやすい。そのため、説明を加えたり具体物操作を通したりして、どのように分けたかということを理解させていくことが必要である。

包含除の「○個ずつ分けるとき、何人に分けられるか」ということは、日常生活においてあまりない場面のため、体験している児童も少ないのではないかと考える。ただ、○個ずつ分けるという考えは図

を用いて説明しやすい。具体的操作でも「全体の数から〇個ずつ引く」という操作を繰り返すことで、視覚的にも捉えやすいと考える。

等分除と包含除を比較したとき、包含除の操作はわかりやすく「除く」という意味に合致するため、包含除を先に指導することが望ましいのではないかと考える。また、包含除から指導した場合、等分除でも「〇人に1個ずつ配った1回分の個数のまとめり」としてみれば、包含除と同様に同数累減の考え方で説明できる。(図1)

図1 (等分除の場面)

1 2 このあめを、4人で同じ数ずつ分けます。  
1人分は何ことになるでしょうか。

1回  $\underbrace{\bullet\bullet\bullet\bullet}$   
2回  $\underbrace{\bullet\bullet\bullet\bullet}$   
3回  $\underbrace{\bullet\bullet\bullet\bullet}$

1回に4個ずつ減っていく。  
(12 - 4 - 4 - 4 = 0)

(2) 除法と乗法の関係

除法は、乗法の逆算ともみられる。そこで、除法の場面を乗法で表し、被乗数と乗数のどちらを求める場面にあっているかを考えさせることで、等分除と包含除の意味を明確に理解することができると思う。(図2、図3)

ここでは、言葉や図などと関連付けながら、「乗法における乗数や被乗数が、除法における除数に当たる」など、除法の式の意味を乗法の式の意味との関係から捉えていくことができるようにすることも大切である。

また、「1つ分の数」を求めるわり算なのか、「いくつ分」を求めるわり算なのかを明確にできることは、第5学年で学習する「小数のわり算」、第6学年で学習する「分数のわり算」等で、文章や数直線をもとに立式する場合にも重要となってくる。

図2

**等分除**…1つ分の数を求めるわり算

$$12 \div 4 = 3$$

(全部の数) ÷ (いくつ分) = (1つ分の数)

↓

$$\square \times 4 = 12$$

(1つ分の数) × (いくつ分) = (全部の数)

**包含除**…いくつ分を求めるわり算

$$12 \div 4 = 3$$

(全部の数) ÷ (1つ分の数) = (いくつ分)

↓

$$4 \times \square = 12$$

(1つ分の数) × (いくつ分) = (全部の数)

(図3)

「わり算はかけ算の逆算である」という理解 →  $A \times B = C$  のAまたはBがわからないときに、 $C \div B$  または  $C \div A$  で求める。

$\boxed{\text{1つ分の数}} \times \boxed{\text{いくつ分}} = \boxed{\text{全部の数}}$

$A \times B = C$

$\boxed{?} = C \quad \div \quad B \quad (\text{等分除})$

$\boxed{?} = C \quad \div \quad A \quad (\text{包含除})$

### (3) 本単元の指導

(1) で述べたように、包含除から学習を進めた方が児童にとってわかりやすいのではないかと考えた。しかし、等分除も包含除と同じ意味である、とおさえると、(2) で述べたように、「1つ分の数を求めるわり算」か「いくつ分を求めるわり算」かの違いを明確にすることができない。

今回は、除法と乗法の関係から、等分除と包含除の意味理解を図ることに重点をおくこととし、等分除を指導した後で、包含除を指導する。

## 5 児童の実態

算数の学習に意欲的で、課題解決に向けて自分なりに考えようとする児童が多い。一方で、基礎基本の定着度や理解する速さには個人差があり、個別指導を必要とする児童もいる。

算数の学習に対しての意識調査で「算数の授業で楽しいときは、どんなときですか。」という問いでは、「テストでよい点数がとれたとき」94%、「わからないことがわかったとき」69%、「自分の考えを友だちや先生がわかってくれたとき」69%と、楽しいと答えた割合が高かった。反対に数値が低かった項目は、「自分の考えをノートにかいているとき」29%、「自分の考えを発表しているとき」31%、「計算をしているとき」34%、「応用問題や文章題を解いているとき」34%であった。このことから、本学級の児童は、わからないことがわかったり、よい点数がとれたりしたときに、充実感を味わい算数が楽しいと感じていることがわかる。また、自分の考えをかいたり発表したりすることに苦手意識をもっている児童もいるものの、自分の考えを友だちや先生がわかってくれたときには、楽しいと感じることがわかった。

本単元のレディネステストの結果では、2年生で学習する乗法九九がまだ定着していない児童が数名いて、 $7 \times 6$ 、 $6 \times 7$ 、 $7 \times 4$ 、 $4 \times 7$ 、 $6 \times 8$ 、 $8 \times 6$ 等で誤答があった。また、かけ算の意味理解が定着していない児童も数名いて、乗数と被乗数を逆に書いて立式したり、 $4 \times 3$ の式で $3 \times 4$ の図を描いたりする誤答があった。

以上のことから、本単元では「分ける」ことの意味を、具体物や図を用いて丁寧に指導していく。これまでの学習でも意識して取り組んできたように、自分の考えを図や式、言葉に表す活動や、自分の考えを友達に説明する活動を通して、考えることの楽しさに気付かせていきたい。また、課題把握の場面を丁寧に指導し、見通しをもって課題解決に取り組めるようにしたり、自力解決時に個別に助言をしたり、児童同士の話し合いの時間を確保したりすることで、できる喜びを全員に味わわせられるよう努める。

## 6 指導の手立て

わり算の問題作りを行い、問題を比較する活動を通して、わり算には1つ分を求めるわり算（等分除）といくつ分を求めるわり算（包含除）の2種類があることを理解する。

かけ算とわり算の関係を丁寧に指導する。

### ○単元計画の工夫

等分除の意味と商の求め方（2時間）、包含除の意味と商の求め方（2時間）の学習のあと、本時を設定した。第1時～第4時の等分除と包含除の学習で扱う数値を同じにし、図や式の比較がしやすいよう工夫した。

### ○具体物の操作、図の表現

わり算の意味を学習する場面では、具体物を操作し、「等しく分ける」ことや「同じ数ずつ分ける」ことの意味をしっかりとイメージできるようにする。また、操作したことを図で表し、式で表現することで、理解が深まるようにする。

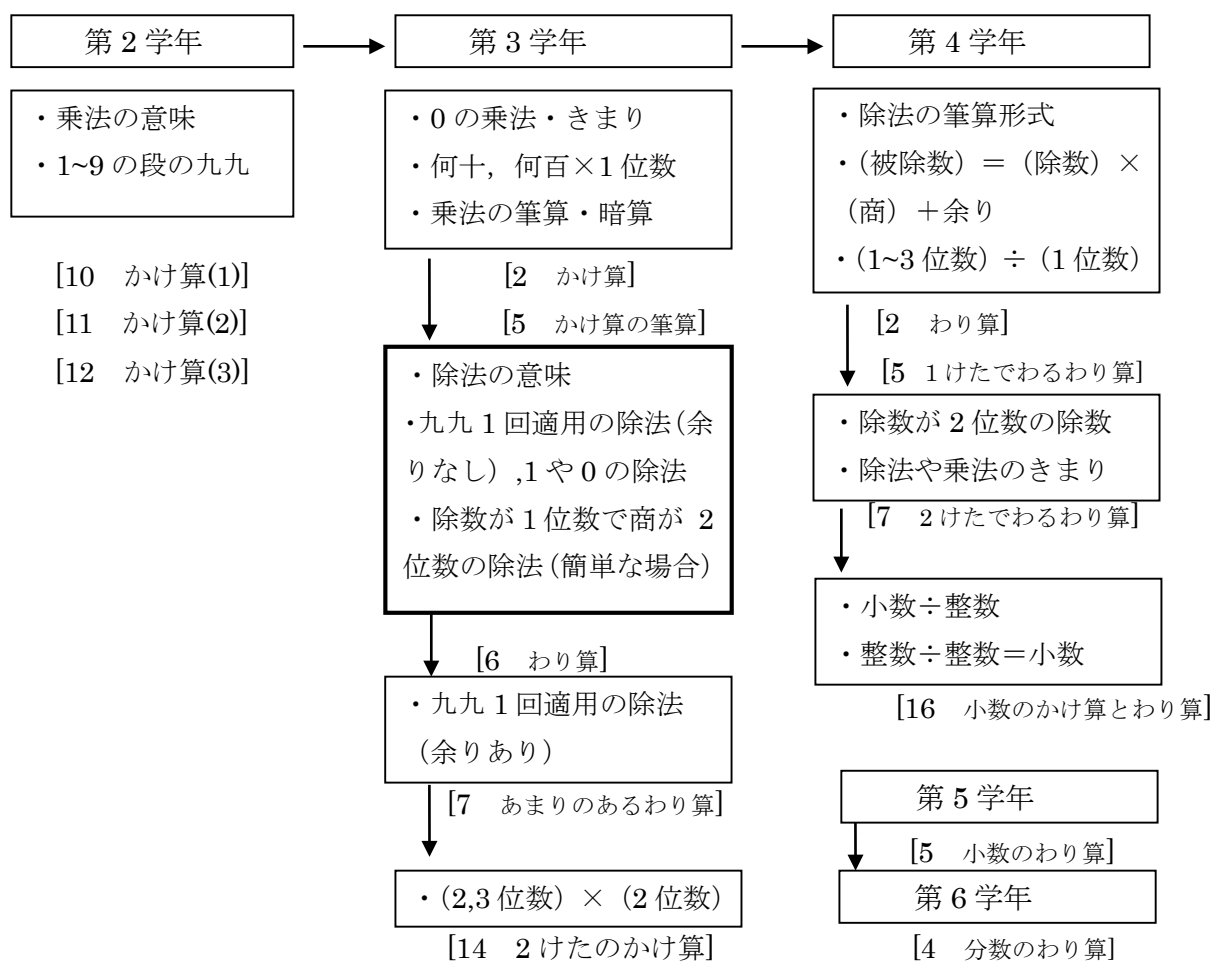
### ○問題作りを通して2種類のわり算の違いを意識させる

本時では、8個のいちごを見せ、 $8 \div 2$ という式から問題を作成する。この時、「1つ分の数を求める」問題と「いくつ分を求める」問題を比較検討し、等分除と包含除の意味や求めるものが違うことについて考えることができるようにする。

また、商はかけ算を使って求められることに気付かせ、等分除と包含除では、求めるものが違うことを明確にしていく。

さらに、適用問題で $10 \div 2$ の問題作りを行い、等分除と包含除の意味が理解できているかを評価する。

## 7 単元の系統



第2学年では、九九の意味理解や構成の学習を実施した後、暗唱に取り組んできた。9割程度の児童が九の段まで暗唱することができた。第3学年「かけ算の筆算」の単元でかけ算九九の確認を行ったところ、忘れてしまっている段があったり、他の段と答えが混同していたりする児童がいることが分かった。また、4年生でも、九九が苦手なためわり算でつまずいている児童がいる実態があることがわかった。

本単元では、かけ算とわり算とを関連付けて考え、何を求めているのかを明確にした上で立式することができるようにする。ここで学習したことは、第4学年以降の学習にもつながっていく。

第4学年「1けたでわるわり算」の中には、「どんな式になるかな」という学習がある。ここでは、問題文や数直線から数量の関係をとらえ、除法になるか乗法になるかを判断し式を立てる。 $\boxed{1\text{つ分の数}} \times \boxed{\text{いくつ分}} = \boxed{\text{全部の数}}$  のどこを求める問題なのかを読み取らなければならない。第5学年「小数のわり算」や第6学年「分数のわり算」においても、「わり算はかけ算の逆算だから、÷小数、÷分数ができる」という考え方や、「1つ分を求める計算だから等分除で求める」という考え方が重要になる。

8 指導・評価計画

小 単 元	時	学習内容	評価の観点			
			関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
わり算	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「12個のチョコレートを4人で分ける」場面について話し合う。</li> <li>・「12個のチョコレートを4人で等分するとき」の1人分の個数を、操作を通して考え、等分除の意味をとらえる。</li> <li>・除法の式の表し方を知る。</li> </ul>	○等分除が用いられる場合を具体的な操作に置き換えたり図に表したりすることでその意味をとらえようとしている。	○除法が用いられる場面を具体物や図などを用いて考えている。		
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等分除の場面で、<math>24 \div 6</math>の答えの求め方を考える。</li> <li>・除法の答えと乗法の被乗数との関係を考える。<math>(\square \times 6 = 24)</math></li> <li>・乗法九九で除法の答えを見つける。</li> </ul>		○等分除の場面を乗法と関連付けてとらえ、具体物を操作したり、図に表現したりしながら、乗法九九に着目して、答えを見付ける方法を考えている。		○除法と乗法や減法との関係について理解している。
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「12個のクッキーを1人に4個ずつ分けるとき」の1人分の個数を、操作や図に表すことを通して包含除の意味をとらえる。</li> <li>・除法の式に表す。</li> </ul>		○除法が用いられる場面を具体物や図などを用いて考えている。		○包含除が用いられる場面のときも、除法の式に表すことを理解している。
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包含除の場面で<math>24 \div 6</math>の答えの求め方を考える。</li> <li>・除法の答えと乗法の乗数との関係を考え、説明する。<math>(6 \times \square = 24)</math></li> <li>・乗法九九で除法の答えを見付ける。</li> </ul>		○包含除の場面を、乗法と関連付けてとらえ、乗法九九によって答えが見つけられることを説明している。		○包含除が用いられる場面のときも、除法の式に表すことを理解している。

	5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8個のいちごの絵を見て、<math>8 \div 2</math>の式になる問題を作る。</li> <li>・ 2つの問題（等分除、包含除）の違いを考え、発表しあう。</li> <li>・ 2つの除法についてまとめる。</li> <li>・ <math>10 \div 2</math>の式になる除法の問題を2種類作る。</li> </ul>		○ 2つの問題を比較し、除法の意味の違いを考えている。		○ 2つの除法の意味の違いを理解している。
	6	・ 除法の問題を作り、友達同士で問題を解き合う。			○ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。	○ 等分除や包含除の除法の意味について理解している。
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除法の計算練習をする。</li> <li>・ わり算の本を作る。</li> </ul>	○ 日常場面の中から、除法が用いられる場面を見つけ、わり算の本作りを楽しむとする。		○ 除数と商が共に1位数である除法の計算ができる。	
1 や 0 の わり 算	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クッキーの数が12個、4個、0個のとき、それぞれ4人で等分する場合の式と答えを考える。</li> <li>・ 答えが1になる場合と0になる場合の除法についてまとめる。</li> </ul>		既習の除法の意味をもとに、答えが、1や0になる除法や、1でわる除法の場面をとらえ、その計算の仕方を考えている。		
計算の きまり を使って	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算の決まりを使って <math>36 \div 3</math>の計算の仕方を考える。</li> <li>・ 乗数や除数が一定になる式の間になり立つきまりを見つける。</li> </ul>		○ 図や既習の乗法や除法を用いて、答えを見つける方法を考えている。		

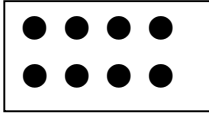
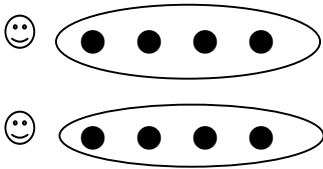
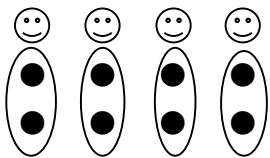
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・80÷4の計算の仕方を考える。</li> <li>・除法の筆算の仕方を知る。</li> </ul>		○図や既習の乗法や除法を用いて、答えを見つける方法を考えている。		
	11	・生活に関する除法を活用して、問題を考える。		○除法の式を具体的な場面に結び付けてとらえている。	○図をもとに除法の式を立てて計算できる。	
れんしゅう	12	・既習事項の理解を深める。			○除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。	
かだめし	13	既習事項の確かめをする。				・除法が用いられる場面の数量の関係を理解している。



9 本時のねらい

- ・等分除と包含除の問題を比較することを通して、わり算には1つ分を求めるわり算といくつ分を求めるわり算の2種類があることを理解する。

10 本時の展開 (5 / 13)

	■学習活動 発問 (T) と予想される児童の反応 (C)	●留意点 ☆評価 ★手立て
課題把握・見通し	<p>■課題を把握し、課題解決の見通しを立てる</p> <p>T1 今日は、わり算の問題作りをします。</p> <p>T2 8個のいちごがあります。</p>  <p>このいちごを、<math>8 \div 2</math>の式に合うように分けたいと思います。</p> <p>どんな分け方があるでしょうか。</p> <p>C1 8個のいちごを、2人で分ける。</p> <p>C2 8個のいちごを、2皿に分ける。</p> <p>C3 8個のいちごを、2個ずつ分ける。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">8 ÷ 2の式になる問題を作って、答えをもとめましょう。</p> <p style="background-color: yellow; padding: 2px;">&lt; T3C4567 が削除 &gt;</p> <p>T3 それでは <math>8 \div 2</math>になる問題を作ってみましょう。</p> <p>問題の場面を、絵や図にかきましょう。</p> <p>式と答えも書きましょう。</p>	<p>●いちごのイラストを掲示し、課題を捉えやすくする。</p> <p>●分け方や問題に出てくるキーワードを確認することによって、見通しをもって課題解決ができるようにする。</p> <p>●後で問題を比較しやすくするため、問題・図・式・答えをかく欄を明確にしたワークシートを使って問題作りの活動を行う。</p>
自力解決	<p>■ <math>8 \div 2</math>の問題を作る</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>A <u>1つ分</u>の数を求めるわり算 (等分除)</p> <p>8このいちごを、同じ数ずつ2人に分けます。1人分は何こになるでしょうか。</p>  <p>式 <math>8 \div 2 = 4</math></p> <p>答え 4こ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>B <u>いくつ分</u>かを求めるわり算 (包含除)</p> <p>8このいちごを、1人に2こずつ分けます。いちごは何人に分けられるでしょうか。</p>  <p>式 <math>8 \div 2 = 4</math></p> <p>答え 4人</p> </div> </div>	<p>●少なくとも1人が1つ問題を作ればよいこととする。</p> <p>★ヒントコーナーを設け、問題作りが難しい児童には、既習のわり算の問題や見通しで挙げたことを振り返り、どんな分け方で問題ができるかを考えるよう助言する。</p> <p>★問題作りが終わった児童には、2つ目の問題を作るよう促したり、答えの求め方を尋ね、書くよう助言したりする。</p>

<p>集団検討</p>	<p>■ 2つの問題を比較する</p> <p>T4 AさんとBさんの、2人が作った問題を見て下さい。 次の問題はどちらの問題と同じ(似ている)でしょう。</p> <p>C4 Aの問題に似ています。</p> <p>T5 どうしてそう思いましたか。</p> <p>C5 「同じ数ずつ2人に分けた」からです。</p> <p>C6 図を見ると、2つずつ囲んであるからです。</p> <p>T6 では、自分が作った問題を見て下さい。AとB、どちらの問題と同じですか。同じだ、似ているな、と思う問題に、自分の名前のマグネットを貼りましょう。</p> <p>T7 A・B 2つの問題や図、式、答えを比べて、同じところや違うところがありますか。気付いたことを発表しましょう。</p> <p>C7 どちらも、式が<math>8 \div 2</math>で同じです。</p> <p>C8 答えがどちらも4です。</p> <p>C9 どちらも<math>8 \div 2</math>だけど、Aは2人の2、Bは2こずつの2で、意味が違います。</p> <p>C10 図を見ると、●の囲み方が違います。Aは4こずつ、Bは2こずつ囲んであります。</p> <p>C11 答えはどちらも4です。だけど、Aは<u>4こ</u>、Bは<u>4人</u>で、答えの単位が違います。</p> <p>T8 式も答えも同じなのに、どうして<u>4こ</u>と<u>4人</u>で違うのでしょうか。</p> <p>C12 AとBは、問題で聞かれている<u>こと</u>が違います。Aは「1人分は何個」、Bは「何人に分けられるか」。</p> <p>T9 なるほど。答えは同じ4でも、意味が違うのですね。この答えの4は、どうやって出したのですか。</p> <p>C13 かけ算で考えました。</p> <p>C14 <math>2 \times 4</math>です。</p> <p>T10 A・Bどちらも<math>2 \times 4</math>でいいのかな。</p> <p>C15 Aは、<math>4 \times 2</math>です。 かけ算は、「1つ分の数<math>\times</math>いくつ分=全部の数」です。Aは、1つ分の数が4(4個ずつ)で、いくつ分が(2人分)だからです。</p>	<p>●等分除、包含除それぞれの問題を、数枚取り上げ比較させる。</p> <p>●自分が作った問題と似ている問題に名前のマグネットを貼る活動を通して、それぞれの問題の場面に着目させる。</p> <p>☆考 2つの問題を比較し、除法の意味の違いを考えている。</p> <p>★式は同じでも、「2人に分ける」と「2こずつ分ける」違いを、図や問題文から考えさせる。</p> <p>★問題の違いをわかりやすく説明できるように助言する。</p> <p>●児童から、除法と乗法の関係や、かけ算の意味「1つ分の数<math>\times</math>いくつ分=全部の数」に関する発言が出ないときには、気付くよう投げかける。</p>
-------------	---	--

ま と め	<p>C16 Bは、<math>2 \times 4</math>です。1つ分の数が2（2個ずつ）で、いくつ分が4（4人分）だからです。</p> <p>T11 もう一度、AとBの問題を見てみましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>A (1つ分の数を求めるわり算)</p> <math display="block">8 \div 2 = \square</math> <math display="block">\square \times 2 = 8</math> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <span>↑</span> <span>↑</span> <span>↑</span> </div> <p style="font-size: small; text-align: center;">1つ分の数    いくつ分    全部の数</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>B (いくつ分を求めるわり算)</p> <math display="block">8 \div 2 = \square</math> <math display="block">2 \times \square = 8</math> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <span>↑</span> <span>↑</span> <span>↑</span> </div> <p style="font-size: small; text-align: center;">1つ分の数    いくつ分    全部の数</p> </td> </tr> </table> <p>同じ <math>8 \div 2</math> の式から2種類のわり算の問題ができました。Aは何を求めるわり算ですか。</p> <p>C17 Aは「1つ分の数」を求めるわり算です。</p> <p>T12 Bは何を求めるわり算ですか。</p> <p>C18 Bは「いくつ分」を求めるわり算です。</p> <p>T13 それでは、まとめ（分かったこと）を書きましょう。</p>	<p>A (1つ分の数を求めるわり算)</p> $8 \div 2 = \square$ $\square \times 2 = 8$ <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <span>↑</span> <span>↑</span> <span>↑</span> </div> <p style="font-size: small; text-align: center;">1つ分の数    いくつ分    全部の数</p>	<p>B (いくつ分を求めるわり算)</p> $8 \div 2 = \square$ $2 \times \square = 8$ <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <span>↑</span> <span>↑</span> <span>↑</span> </div> <p style="font-size: small; text-align: center;">1つ分の数    いくつ分    全部の数</p>	
	<p>A (1つ分の数を求めるわり算)</p> $8 \div 2 = \square$ $\square \times 2 = 8$ <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <span>↑</span> <span>↑</span> <span>↑</span> </div> <p style="font-size: small; text-align: center;">1つ分の数    いくつ分    全部の数</p>	<p>B (いくつ分を求めるわり算)</p> $8 \div 2 = \square$ $2 \times \square = 8$ <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <span>↑</span> <span>↑</span> <span>↑</span> </div> <p style="font-size: small; text-align: center;">1つ分の数    いくつ分    全部の数</p>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>わり算は、  <math>\bigcirc \times \triangle = \square</math> の <math>\bigcirc</math> (1つ分の数) をもとめるわり算と  <math>\triangle</math> (いくつ分) をもとめるわり算があります。</p> </div> <p>C19 わり算には2つの種類があることが分かりました。</p> <p>C20 同じわり算の式でも、求めるものが違います。</p> <p>C21 どちらの問題もかけ算を使って答えが求められます。</p> <p>■適用問題を解く</p> <p>T13 それでは、<math>10 \div 2</math> の式になる問題を作ってみましょう。今度は、2種類の問題を作って下さい。分けるものは、いちごでなくてもいいです。自分で考えてみましょう。</p> <p>2種類の問題、式、答えを書きましょう。書き終わったら、図も描いてみましょう。</p>	<p>●A、B2つの問題に児童から出た名前をつけるなど工夫し、区別しやすいようにする。</p> <p>●適用問題を通して、理解しているかどうかを評価する。  (はじめに作った問題と、ここで作った問題で、個人の変容を見る。)</p> <p>☆<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span>  2つの除法の意味の違いを理解している。</p>		

11 評価

- ・わり算には、かけ算の意味である「1つ分の数×いくつ分=全部の数」の、「1つ分の数」を求めるわり算と「いくつ分」を求めるわり算の2種類があることを理解している。

## 1 2 板書計画

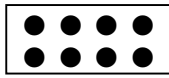
7 / 1

8このいちごがあります。

$8 \div 2$ の式に合う

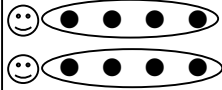
分け方

- 8このいちごを  
2人で分ける。
- 8このいちごを  
2こずつ分ける。



A

8このいちごを、同じ  
数ずつ2人に分けます。  
1人分は何こになる  
でしょうか。



式  $8 \div 2 = 4$   
答え 4こ

B

8このいちごを、1人に  
2こずつ分けます。い  
ちごは何人に分けられ  
るでしょうか。



式  $8 \div 2 = 4$   
答え 4人

A (1つ分の数を求めるわり算)

$$8 \div 2 = \square$$

$$\square \times 2 = 8$$

↑ ↑ ↑  
1つ分の数 いくつ分 全部の数

B (いくつ分を求めるわり算)

$$8 \div 2 = \square$$

$$2 \times \square = 8$$

↑ ↑ ↑  
1つ分の数 いくつ分 全部の数

めあて

$8 \div 2$ の式になる問題を作って、  
答えをもとめましょう。

<キーワード削除>

2つをくらべてちがうこと

- 4こ と 4人
- 2人に分ける と 2こずつ分ける
- (図) 4こずつ と 2こずつ
- (聞かれていること)  
1人分は何こ? と 何人に分けられる

まとめ

わり算は

$1$ つ分の数 をもとめるわり算と

$いくつ分$  をもとめるわり算があります。